

ぶどうのクビアカスカシバ防除を遅れずに実施

～ 発生時期が早く発生量も多い ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

横手市防除適期決定ほ（2地点）のフェロモントラップにおけるクビアカスカシバの初誘殺時期は、横手市大沢が6月1半旬（平年6月3半旬）で早く、横手市十文字が6月2半旬（平年6月2半旬）で平年並だった（表-1）。また、6月3半旬の総誘殺数は195頭（平年46.9頭）で多かった（図-1）。

6月15日に仙台管区気象台から発表された1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。

以上のことから、今後、クビアカスカシバ幼虫（図-2）による食入被害（図-3）が多くなると予想されるため、早期に園地内の発生状況を確認し、防除対策を実施する必要がある。

表-1 横手市防除適期決定ほ(2地点)のフェロモントラップにおける初誘殺時期

	大沢	十文字
2023	6月1半旬	6月2半旬
平年	6月3半旬	6月2半旬
概評	早い	平年並

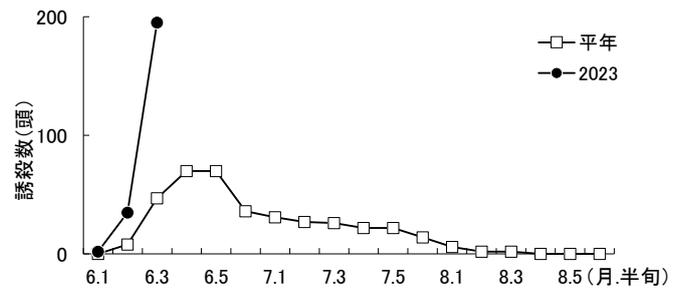


図-1 横手市防除適期決定ほ(2地点)のフェロモントラップにおける誘殺状況

2. 防除対策

1) 耕種的防除

- ・粗皮があると幼虫が下に隠れ発見が遅れやすいため、粗皮剥ぎを行う。
- ・幼虫の食入時期は通常7月上旬～10月上旬で、食入幼虫数は8月に多い。しかし、本年は成虫の発生時期が早く、幼虫の食入時期も早いと予想されるため、6月下旬より園地内の見回りを継続的に行う。
- ・被害部から排出される虫糞（図-4）を目印にして、幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。以前に被害を受けた部分や根頭がんしゅ病の発病部分で被害が多い。

2) 薬剤による防除（表-2）

①幼虫の食入防止対策

- ・粗皮があると薬剤処理の効果が劣るため、粗皮剥ぎを行ってから薬剤処理する。
- ・ガットサイドSを6月中下旬に主幹部に塗布又は散布する。
- ・フェニックスフロアブル又はテッパン液剤の1回目散布は、落花後直ちに行い、2回目散布は7月中旬に実施する。ただし、果粒大豆大期以降は果粉溶脱のおそれがあるので注意する。
- ・スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列散布を基本とし、枝幹に十分に薬液がかかるように散布する。樹の地際部は薬液がかかりにくいいため、同日に補完散布を行う。ただし、既にガットサイドSを処理している場合は必要ない。

②幼虫の食入後の対策

フェニックスフロアブル又はテッパン液剤処理後も虫糞排出が認められる場合は、食入孔へロビンフッドを処理する。幼虫に薬液が到達するように、虫糞や粗皮を剥ぎ食入孔の向きを確認してから処理する。また、処理後も園地内の見回りを継続して行い、虫糞の排出が確認された場合は再度ロビンフッドを処理する。

3. 資料

表-2 クビアカスカシバの防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	散布時期	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数
1B	ガットサイドS	1.5倍	6月中下旬に主幹部に塗布又は散布	2回以内	4回以内※1
28	テッパン液剤	2,000倍	6月下旬と7月中旬頃に撒布	2回以内	2回以内
28	フェニックスフロアブル	4,000倍		2回以内	3回以内※2
3A	ロビンフッド	—	7～10月（虫糞排出確認時）に食入孔へ噴射	5回以内	7回以内※3

RACコード 1B：有機リン剤 28：ジアミド系剤 3A：合成ピレスロイド剤

※1：4回以内（収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内）

※2：3回以内（樹幹散布は1回以内、散布は2回以内）

※3：7回以内（但し、噴射は5回以内、散布は2回以内）



図-2 クビアカスカシバ老齢幼虫



図-3 クビアカスカシバ幼虫による食入被害



図-4 クビアカスカシバ幼虫の虫糞

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP	https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	